

水墨画にチャレンジ！

公立大学法人京都市立芸術大学

- ▶担当（事業リーダー）美術学部教授 川嶋渉
（事務担当）事務局連携推進課事業推進担当 小川久美子
- ▶電話 075-334-2204（事業推進担当）

事業目的・背景

本事業は、京都市立芸術大学の日本画研究と教育の成果を社会資源ととらえ、実技講座、教育現場での交流授業、学生の社会参加等の活動を通して、その活用について研究する目的で取り組んでいます。

また、本学移転先である下京区との小大連携のあり方の一つとしてのパイロット授業を展開しています。

事業概要

9月24日に実施した下京雅小学校6年生の総合的な学習の時間「みやび学習」の中では、雪舟の作品を手本にし、水墨画に触れました。（午前・午後で2回実施、計60名が参加）

さらに10月23日・11月6日の2週にわたり実施した下京雅小学校の「伝統文化部」の活動の一環として、水墨画特有の筆運び（筆法）を駆使した作品を描きました。この回では墨汁でなく墨を硯でする体験も実施しました。

（10月23日は5名、11月6日は6名が参加）

活動期間

京都市立芸術大学は明治13年（1880年）に京都府画学校として創設されて以来、設置形態を変えながらも、一貫して芸術の制作・教育・研究活動を担ってきました。その中で、本学の日本画研究室は、2008年からの「美しいと出会うプロジェクト」では京都市内の教育現場で多様な美術学習の機会を提供し、大

学生が講師として指導し、共に学びあう取組や、「学ぶ日本画プロジェクト」として本学日本画専攻における研究教育の魅力を広く伝えるために、展示や講義、実技講座などを行う活動を継続して行っています。

平成29年度より本事業での採択を受け、下京雅小学校での水墨画の指導を実施しています。

成果

本事業を通して、水墨画の魅力が子供たちに認識してもらうことが出来ました。また、芸術活動を通じた小大連携を確立することができ、本学移転後の地域との連携の、ひとつのあり方のモデルケースを提示することが出来ました。また、講師役の学生の指導のノウハウの引き継ぎがうまく行えたことなど、指導に関しても成果もあり、本学の創設時より卒業生の多くが様々な教育に携わり、今日まで連綿と引き継がれている、この「教育の循環」を、本事業でも大学生を通して実践することが出来ました。

今後の予定

京都市立芸術大学が下京区へと移転するにあたり、地域の皆様との関わりをより密にしていけることが大切であると考えています。今回の取り組みで3年目となり、下京区民が主役のまちづくりサポート事業としては終了となりますが、今後も水墨画ワークショップを活用した小大連携のあり方を検証し、展開を模索していきたいと思っています。



〈2019年9月24日〉
室町時代の特徴（とりわけ東山文化）の説明後、水墨画の基本の筆法“寝かす”“立てる”“かすれさせる”“グラデーション”のテクニックを講師の大学生が実演し、アドバイスをしました。お手本の「雪舟の山水図」の実物大見本を鑑賞しながら、習った筆法がどこにどのように使われているかを確認し、描いていきます。



〈2019年10月23日・伝統文化部の活動①〉
水墨画を描くにあたり、まずは“墨を硯でする”ということから体験。筆を立てて描く「直筆」、寝かせて描く「側筆」を中心に、様々な線を描く練習をしました。



〈2019年11月6日・伝統文化部の活動②〉
前回の線の描き方を駆使しながら、用意した竹の作品をお手本に、色紙に描きました。